

政治の劣化から脱却を

4月28日に行われた衆議院3補導力を発揮できていない。また岸
久選挙で自民党は落敗した。裏金田派の会計責任者は政治資金報告
問題が敗北の最大の理由であるに書不記載で立件されても会長の責
任は問われぬままだ。いつ、なぜ

最近特に目につくのは、自民党指このよきな大規模な裏金のスキ
導者の不人気、長老支配な旧態ムが始められ、20年といわれる長
依然とした党の体質、倫理観を疑期にわたったのか解明することが
わかる多くの議員のスキャンダルまふ必要であったし、解明する方
なく、自民党政治の劣化だ。うては自民党体制の維持には責
岸田内閣の支持率は20%台に低さないと判断があるのだろう。

な信念に基づいて行動しているよ自民党の旧態依然とした体質は
うには見えず、手はが政権維持の変わらない。政治資金改正の目
ためのパフォーマンスと見られが民衆案を見ても既得権益を壊して
た。裏金問題の対応についても政治資金の透明化と政治資金規正
派閥の解消や政治倫理審査会への法違反の厳罰化を図ろうという意
出席など、世間の耳目を集める行欲は感じられない。森元総理、麻
動には見られるが、本来最も重要であ生元総理、一階元幹事長といっ
るべき裏金問題の事実解明には拍長が敗風(はつこ)し、大きな



田中 均

たなか、じしんの東京大選挙、外務省選出、
アジア大洋局長、外務省副官を経て、(株)日本銀
行国際戦略研究所理事を経て特別顧問、(公財)
日本国際交流センター「シニア・フェロー」。

時評 ウェーブ

影響力を行使することへの反発は、党内からは出てこない。不記載額が最も多く、嚴重な政治的処罰が与えられるべき一階元幹事長についても、次期総選挙不出馬を宣言することにより処罰を免れただけではなく、後継に子息を立てるという傲慢な態度をとっていることには驚きた。自民党の有力議員が党を割つても派閥解消や政治資金の透明化に突き進んだ90年代とは大きな違いだ。

自民議員の贈収賄、不倫、ハラスメント、旧統一教会問題などに関連したスキャンダルも後を絶たず、倫理観の欠如としか言いようがない。長期に続いた安倍政権が下で権力に守られているという意識があつたのか、政治家の規律が大きく緩んでいるように見える。100人を超える派閥を率い、安倍・官邸一強といわれた権の集約の弊害なのだろうか。

補欠選挙全敗の後も派閥闘争が続いてくるのは解散総選挙の時期と、自民党総裁選挙の候補者として、数に類した緊張感のない政治を打破し、政党間の競争によって政策を競い、相互を監視することができるような本来の民主主義体制を構築しなければならぬ。

消が言言されても再び復活するのはないか。これでは自民党が信頼を回復するのは容易なことではない。一方において野党が政権の受け皿として準備ができていとも認識されていないようだ。補欠選挙においても投票率は依然低く、自民党を総選挙の有権者は投票に行かず、政治に対する無関心につながつていくようだ。

政治の停滞は日本の停滞につながる。少子高齢化や労働生産性の向上、財政権過健全化など国内課題や脅威が増した東アジア外交などの対外課題は一刻も着手を許さない。また、政治の健全化が求められる。そのためには国民の認識が最も重要だ。とりわけ、有権者が投票に行く事が求められる。そ